

<出席委員会報告>

岡本会員

	会員	出席	欠席	メイク	出席率
第1435回	46※	32	14		69.57%
第1434回	46※	35	11	6	89.13%

※出席免除会員2

<ニコニコ・財団・米山委員会報告>

	今回		累計	
ニコニコ	27件	28,000円	837件	921,000円
財団	0件	0円	22件	310,200円
米山	1件	20,000円	40件	375,000円

本日のプログラム

<招聘卓話>

麻生消防署長 富岡隆様

ご紹介いただきました麻生消防署の富岡です。いつも救急救命用の資機材をご提供いただき、ありがとうございます。22日に柿生中学校、25日に西生田中学校でそれらの資機材を使って3年生全員に市民救命士を取っていただこうと思っています。

今日は消防の現状についてお話させていただきます。まず職員数は全市で1,417名、8つの署と30の出張所があります。麻生消防署は123人の職員、日勤といわれるものは私も入れて15人、当直は108名おり、1つの本署と3つの出張所(百合丘、王禅寺、柿生)が配置されています。それ以外に消防力としては消防団が全市で1,207人、麻生は136名おります。定員は140名ですが、消防団の定員が減っているといわれる中、非常に効率的な組織になっています。

昨年の市内火災は432件ありました。麻生は55件で、麻生消防署ができてから一番多く残念です。この数字が多いかどうかということですが、全市では1万人あたり3.7件の火災に対し、麻生はここ10年の平均が2.42件です。昨年だけを見ても3.48件で、まだ全市の平均より少ないです。それだけ安全な街といえると思います。去年多かったのは黒川地区で連続放火があったからです。月の火災件数は3.4件くらいなのですが、去年の1月は15件くらいあり、これが押し上げてしまいました。黒川では2日くらい前に連続放火があった付近で火災がありましたが、事件性は少ないことがわかりました。ただ治安のために消防で夜間の巡回を始めています。

救急件数は全市で6万件、麻生では4,200件。全市では25.5人に1人、麻生では32.8人に1人が救急車をしています。軽症者の割合は全市が58.8%、麻生が58.5%でほぼ平均といえます。

次に、今の消防の体制が十分かどうかということについてお話します。30万人の都市を一つの例として消防車の数や人員を試算するのですが、それによると資器材はほぼ基準を満たしています。足りないのは救急車。25台必要なのですが配置は24台です。人員は指針の9割。消防は専門性というか、指揮者、運転する人、放水する人と機能別に分かれているので、やりくりがきつのが実情です。

今後の消防の予定ですが、4月から情報隊が一隊増えます。消防は危険が多いので、火災現場に行って情報を取ることが重要です。人員については4人ほど増やします。また23年以降ですが、栗木に出張所が計画されています。柿生の出張所の立替については寮を作ろうというアイデアが出ています。これは緊急時にすぐ呼び出せる人間を確保しようというもので、全的に何箇所か置くことになっています。

現在の一番の問題は救急問題。東京・横浜は対策が進んでいます。トリアージといわれる選別ですが、電話口で軽症だとわかると、横浜の場合はこれまで3人で1台の救急車を出していたのを2人にして1人浮かせています。東京でも軽症であれば「自分で行っていただけないか」と投げかけをして本人の承諾を得て搬送をやめようとしています。川崎の様子をみているところで、うまくいくようでしたら取り入れていきたいと考えています。

これから話すことは四方山話になってしまいますが、皆さんはヘリコプターがどこに待機しているかご存知でしょうか。新木場です。2機体制でやっていて、離陸しますと5分とかからずに到着します。この付近は羽田と米軍が影響してくるので管制機をかくぐって飛んでいます。コンビナートの上は飛んではいけないということになっています。

救急車は指令が入って行く途中で病人を見つけたらどうするかというと、実は無視して通り過ぎます。絶対指令したところに行かなければいけないという原則がありますので、ご理解ください。

消防は体力勝負と思われがちですが、今は体力だけでは太刀打ちできません。物理、科学、医学、さらに人間工学的なものなどいろんな知識がなければやっていけないのです。ちょうど時間になりましたので、このへんで終わらせていただきます。

